国民学校から小学校へ

千葉市は
昭和20年7月7日（1945）の空襲で
14校のうち 5校の本町・富士見・
院内・都賀・昭南国民学校が
焼け落ちました

義務教育の移り変わりを
太平洋戦争中に千葉市の中で
ただ一つの新設校だった
昭南国民学校に重ねて
終戦前後の学校や子どもたちの
くらしをたどります

明治　5 1872　学制頒布　小学校設置
　　19 1886　尋常小学校 4か年（6～10歳）が義務教育となる
　　40 1907　尋常小学校 6か年（6～12歳）が義務教育となる
昭和　6 1931　満州事変に続き、日中戦争が激しくなると「軍国少年」育成が叫ばれ、学校では武道（木剣・竹槍・薙刀訓練）が正課となり、日の丸鉢巻で軍隊まがいの分列行進・合同体操などの軍事教練が盛んに行われた

幻の昭南国民学校の歩み

昭和16.（1941）　太平洋戦争始まる
富士見国民学校 と改称

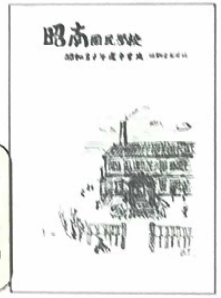
児童数増加により学区を分割して

17.　**昭南国民学校** を併設

校名の由来　昭和17年2月　日本軍が英領シンガポールを占領し「昭南島」としたので、戦争に勝った記念として名付けられた

戦争で校舎がなかなかできず、2年間は富士見国民学校・寒川国民学校に分かれて授業。

19.4.　**新校舎完成** 木造2階建て2棟、14学級



昭南国民学校のスケッチ 昭和20年度卒業生が当時を追想して描いたもの

新校舎とは名ばかりで、屋根と外壁と床だけで、建具も下駄箱も窓ガラス（代わりにムシロを下げたりした）もなかったが、児童は精一杯勉強に励んだ。
千葉市はまだ空襲の危険がなかったので、２学期には60名ほどの疎開児童が編入。

20.7.7（1945）　空襲で５校の国民学校が焼失
空襲で校舎が焼け落ちる

校舎完成からわずか1年3か月であった。
罹災後は、寒川国民学校と千葉高女の同窓会館に分散し、二部授業・三部授業を行った。

20.8.15　終　戦

21.10.　昭南・富士見国民学校は合併して
新宿国民学校 となる

戦争中の日々、最悪の環境の中で、教師と児童が苦労を共に学校作りをしていた昭南国民学校は、発足して4年6か月で消えてしまった…。
「幻の昭南国民学校」と名付けられた。

22.3.31　教育基本法・学校教育法公布により国民学校を再び小学校に改称

子どもたちの銃後のくらし

戦争が激しくなるにつれて昭和16年からは、米と食品全般・衣類・日用品までが配給制となり、物資・食糧不足は深刻化した。

白米の飯　→　麦飯　→　麦だけの飯
　→　雑炊・すいとん・ふすまのパン・コウリャン飯　など

学校は国民学校と改称されてからは、学習の場ではなく、すべて戦争に勝つための軍事教育の場となった。
「児童」ではなく**「少国民」**として戦時体制に組み込まれ、軍事防衛防災訓練のかたわら、食糧増産のための荒地開墾や、畑にした校庭でさつま芋・かぼちゃ・とうもろこしなどの野菜栽培をし、時には勤労動員で農家の手伝いもした。空腹に耐え、ただ黙々と働き続けた。勉強はほとんどすることができなかった。

軍事防衛防災訓練　軍事教練・剣道・薙刀・行軍など

手旗信号の練習　すべてが戦争につながる学習内容となっていった（戦時中）千城小学校

防空頭巾姿で「空襲何ぞ恐るべき我に鉄壁の備えあり　消火始め」（昭和18年）本町小学校

勤労動員　田植え・草取り・稲刈り・麦踏み・芋掘りなど

食糧増産のための農作業（昭和16年）都賀小学校

神主さんに豊作を祈ってもらう田植え式（戦時中）幕張小学校

夜は灯火管制で暗くなり、空襲になると弟妹を背負ったり、引っ張って、防空ごうに逃げ込んだ。お菓子の味も知らず、読書の楽しさも知らず、恐怖と疲労感だけがいつもあった
―検見川小学校　百年記念誌より

長い戦争は終わった